

小鹿野町道路法面・斜面の小規模対策 個別施設計画

令和3年3月

小鹿野町 建設課

目次

1. 対象施設
2. 法面・斜面の小規模対策構造物の現状と課題
 2. 1 管理道路の現状
 2. 2 土木費予算の現状
 2. 3 法面・斜面の小規模対策構造物の現状
3. 法面・斜面の小規模対策構造物の維持管理の基本的な考え方
 3. 1 法面・斜面の小規模対策構造物管理の基本方針
 3. 2 点検方法・点検頻度
4. 計画期間
5. 対策の優先順位（補修計画の方針）
6. 法面・斜面の小規模対策構造物の状態
7. 対策内容と実施時期
8. 記録

1. 対象施設

この施設計画の対象とする法面・斜面の小規模対策構造物は、土留擁壁を対象とする。

2. 法面・斜面の小規模対策構造物の現状と課題

2. 1 管理道路の現状

(1) 管理延長と主な施設数

道路区分	町道管理延長	土留工			
		石積工	コンクリート擁壁工	法枠工	吹付工
1 級市道	23418.9m	39箇所	303箇所	9箇所	14箇所
2 級市道	25263.7m	106箇所	212箇所	4箇所	16箇所
その他市道	173208.5m	未確認			
計	221891.1m	145箇所	515箇所	13箇所	30箇所

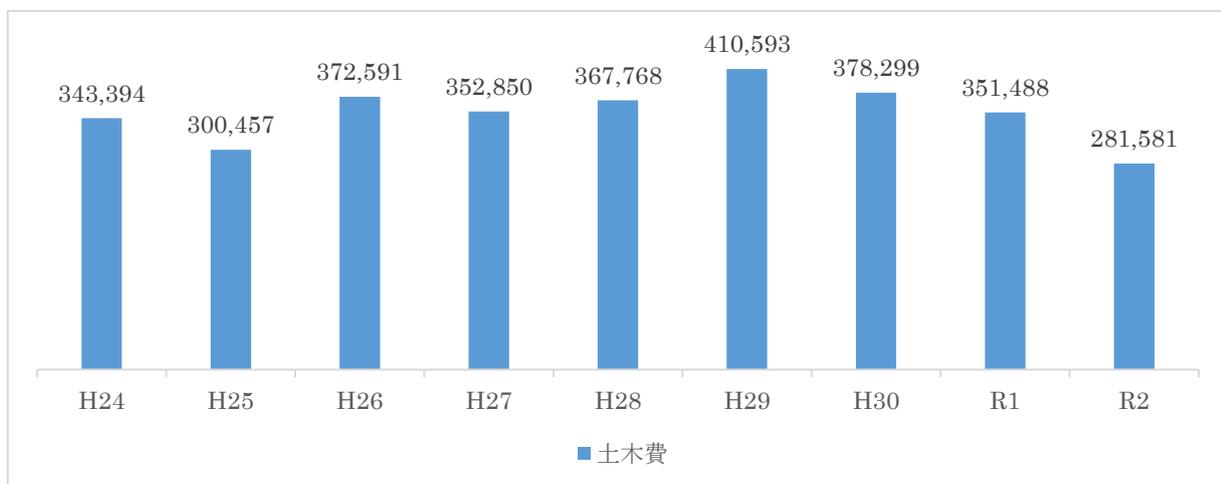
(2) 平均交通量

小鹿野町は管理町道の交通量調査を実施していない。

2. 2 土木費予算の現状

- ・土木費の予算はほぼ横ばい傾向にある。

単位：千円



2. 3 法面・斜面の小規模対策構造物の現状

小鹿野町が管理する法面・斜面の小規模対策構造物の多くは建設から長い年月が経ったものが多く、老朽化が進行している。また、小鹿野町は年間を通じて寒暖の差が著しい環境であり、法面・斜面の小規模対策構造物の老朽化を早める一因ともなっている。このように、経年変化や自然環境的要因による劣化が確認されていることから、今後は事故が起こる前に老朽化の程度を把握し対策を講じる「予防保全」型の維持・補修を実施することが求められている。

3. 法面・斜面の小規模対策構造物の維持管理の基本的な考え方

3. 1 法面・斜面の小規模対策構造物管理の基本方針

法面・斜面の小規模対策構造物の個別施設計画の策定にあたっては、点検結果を踏まえた適切な措置を行うことで、第三者等への被害を発生させず、安全で合理的な管理を目指します。

3. 2 点検方法・点検頻度

種類	点検方法	点検頻度
土留擁壁	目視点検	巡視の機会を通じた構造物状況の把握

4. 計画期間

当該個別施設計画の計画期間は、5年とする

5. 対策の優先順位（補修計画の方針）

第三者への被害の深刻度、損傷状況、路線の重要性、交通量、地域要望等を考慮し修繕や交換の優先順位を決定する。

6. 法面・斜面の小規模対策構造物の状態

令和2年度までに点検した構造物点検結果は以下のとおり

種類	点検数量	対策不要	要対策
土留擁壁	6箇所	0箇所	6箇所

7. 対策内容と実施時期

- ・別紙1、別図1のとおり
- ・法面・斜面の小規模対策構造物の修繕が効率的に実施されるように、その損傷に最も適した対策・方法・時期を決定する。

8. 記録

- ・点検及び撤去・更新、交換廃止等を行った際には、その内容と実施時期等の履歴を確実に記録し、これを保管する。

対策必要箇所一覧表 (R1～R5)

(単位：千円)

別紙1

番号	分類	事業内容		対策内容	概算事業費	事業年度					場所
						R1	R2	R3	R4	R5	
1	1級	町道178号線	L=13.0m W=3.8m	土留工 (コンクリートブロック工)	2,500		2,500				伊豆沢
2	その他	町道214号線	L=58m W=3.0m	石積工	2,500		2,500				藤芝
3	2級	町道276号線	L=13.0m W=4.0m	土留工 (コンクリートブロック工)	5,000		5,000				柿ノ久保
4	2級	町道57号線	L=24.0m W=3.0m	土留工 (コンクリートブロック工)	7,500			7,500			小判沢
5	2級	町道両神82号線	L=50.0m W=4.7m	土留工 (大型ブロック工)	15,500			15,500			両神小森
6	その他	町道436号線	L=15.0m W=4.3m	石積工	3,500			3,500			長久保
					36,500		10,000	26,500			

小鹿野町道路法面・斜面の小規模対策の個別施設計画 別図1

